

ヴァイオリニストTAIRIKUの戯言

〔第10回〕

弦が揺れると、僕は季節の風になる

+ 文 佐田大陸 Text by Tairiku Sada +

激動の時代

「僕達の時代は良かったよ」

大御所の某先生が言った言葉です。クラシックの需要、規模共に年々縮小傾向にあるのを感じます。クラシックをずっと学んできた者としてとても残念に思います。

本来そこまでマーケットの広いジャンルではありませんが、少なくとも一定数の愛好家やファンの人数は確保されてきました。僕達が学生の頃は、世界中に名プレイヤーが存在し、オーケストラ、クアルテット、音楽祭と業界が活気に満ちていました。

現在、多くのオーケストラは財政難でなかなか厳しい状況を強いられしていると聞きますし、日本でトップクラスの某オーケストラも、定期会員になっている高齢層が抜けたらかなり危機だとも言われています。

ドイツに行った時に、現地のドイツ人の通訳さんにそんな話をしたところ「いやいや、ドイツの若者のクラシック離れのほうが酷いよ」と言っていて驚きました。クラシックの聖地とも言われる本場ドイツですらそのような状況です。日本のクラシックが厳しいの

も無理ありません。ただ、伝統芸能と言われているジャンルや古き良きものが瀬戸際に立たされているのは、なにもクラシックだけではないと思います。

今後の時代を生きていく上で、全ての人に言えることは、どれだけ柔軟に生きられるか。

自分の持っているスキルを組み合わせ、どれだけ新しいオリジナルを作っていくかが、大切な時代になっている気がします。

公務員は安定していて、一流企業に入れば生涯安泰と言われた時代も終焉を迎えそうな今、音楽業界もとても大きな過渡期に差し掛かっています。

堀江貴文さんが「寿司屋で何年も修業するなんてバカだ」と言って過去に炎上しましたが、ヴァイオリンの修業は10年20年とやってもなかなかまとまな音が出ません。業界が下火の中、とんでもないコストパフォーマンスの悪さです。

しかし悪い面ばかりではありません。日本人はみな同じが良い、出る杭

は打たれる、という流れが、SNSの普及によって、個性をどんどん発揮する事に抵抗のない時代に、変わりつつあるように感じます。

一人一人がいつでもどこでも、世界中の人と繋がれる時代です。感性と直感がより大切な時代とでも言うのでしょうか。

創造的な生き方がより必要になってきているのではないかと思います。

「君たちの時代は最高だね」

という言葉が後々言えるように、今の時代を楽しみながら全力で駆け抜けていきたいと思えます！



profile

2010年3月に桐朋学園大学音楽学部大学院を修了。
2ヴァイオリンとピアノのアンサンブル・ユニット「TSUKEMEN」のヴァイオリニストでリーダー。
2010年キングレコードからメジャーデビュー。
結成9年目にして450本以上の公演を海外や日本全国各地で開催、現在までにのべ35万人を動員している。